

【公開版】

菰野インター周辺地区土地区画整理事業に係る
環境影響評価事後調査報告書
(令和 6 年度)

令和 7 年 5 月

菰野インター周辺地区土地区画整理組合

目 次

第1章 事業者の概要	1-1
1.1 事業者の名称、代表者の氏名及び所在地	1-1
1.2 対象事業の内容	1-1
1.2.1 対象事業の名称	1-1
1.2.2 対象事業の種類	1-1
1.2.3 対象事業の規模	1-1
1.2.4 対象事業の実施区域の位置	1-1
1.3 対象事業の手続き状況	1-5
1.3.1 環境影響評価方法書	1-5
1.3.2 環境影響評価準備書	1-5
1.3.3 環境影響評価書	1-5
1.3.4 事業内容等の変更	1-5
1.4 対象事業の進捗状況	1-8
1.5 事後調査の進捗状況	1-8
1.6 調査委託機関	1-10
第2章 調査結果	2.1-1
2.1 水 質(流量)	2.1-1
2.1.1 調査概要	2.1-1
2.1.2 調査項目及び分析方法	2.1-1
2.1.3 調査地点	2.1-1
2.1.4 調査時期	2.1-2
2.1.5 調査結果	2.1-4
2.1.6 まとめ	2.1-4

2.2 土 壤（土壌汚染）	2.2-1
2.2.1 調査概要	2.2-1
2.2.2 対策工事方法	2.2-1
2.2.3 対策工事範囲	2.2-1
2.2.4 対策工事時期	2.2-1
2.2.5 対策工事結果	2.2-1
2.2.6 まとめ	2.2-1
2.3 陸生植物（重要な種）	2.3-1
2.3.1 調査概要	2.3-1
2.3.2 調査方法	2.3-1
2.3.3 調査地域・地点	2.3-1
2.3.4 調査時期	2.3-1
2.3.5 調査等の結果	2.3-4
2.3.6 まとめ	2.3-8

本書で使用している地形図は、国土地理院の電子地形図 25000（オンデマンド版）、電子地形図 20 万「名古屋」、三重県市町総合事務組合の数値地形図 2500「菰野町（H23 年度）」及び菰野町発行の 1 万分の 1 地形図を使用しています。

はじめに

本報告書は、「菰野インター周辺地区土地区画整理事業（環境影響評価手続き時の名称：（仮称）菰野インター周辺地区土地区画整理事業）」に係る令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）の事後調査の結果を取りまとめたものです。

本事業は、三重県環境影響評価条例（平成10年三重県条例第49号。以下「条例」という。）が定める対象事業（「条例施行規則」別表第1第10号イの項に掲げる事業「土地区画整理事業」）に該当することから、次頁に示すとおり環境影響評価手続きを実施しており、令和元年12月に「（仮称）菰野インター周辺地区土地区画整理事業に係る環境影響評価書」（令和元年12月、（仮称）菰野インター周辺地区土地区画整理組合設立準備会）（以下、「評価書」という。）を三重県知事及び菰野町長に送付しました。

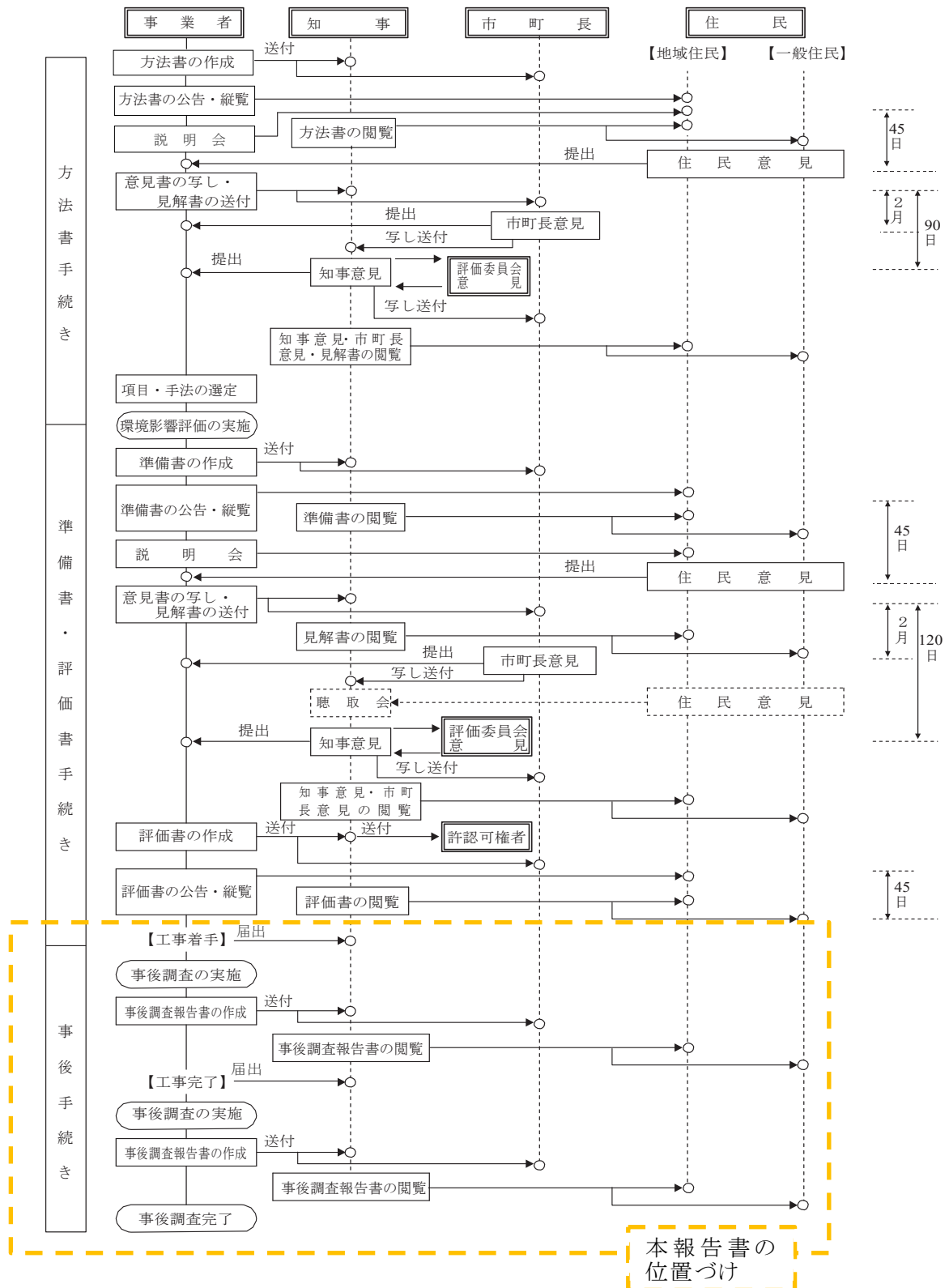
本報告書に取りまとめた事後調査は、三重県環境影響評価条例第34条及び三重県環境影響評価条例施行規則第53条に基づき、評価書の「事後調査計画」に記載した項目を実施したものであり、今年度は、先行して実施している音羽地区に係る項目である、「水質（流量）」、「土壌（土壌汚染）」、「陸生植物（重要な種）」に係る事後調査の結果を記載しています。

なお、この「事後調査報告書」は、本土地区画整理組合の事業計画を基に株式会社サポートが作成致しました。

令和7年5月

菰野インター周辺地区土地区画整理組合
理事長 伊藤 弘幸

事後調査報告書の位置づけ



出典:「平成 27 年版環境白書」(平成 27 年、三重県)より

図 三重県環境影響評価条例の手続きフロー

第 1 章 事業者の概要

1.1 事業者の名称、代表者の氏名及び所在地

事業者の名称: 菰野インター周辺地区土地区画整理組合

代表者の氏名: 理事長 伊藤 弘幸

所在地: 三重県三重郡菰野町大字菰野 1099 番地

1.2 対象事業の内容

1.2.1 対象事業の名称

菰野インター周辺地区土地区画整理事業

1.2.2 対象事業の種類

土地区画整理事業(「三重県環境影響評価条例施行規則」別表第 1 第 10 号イの項に掲げる事業)

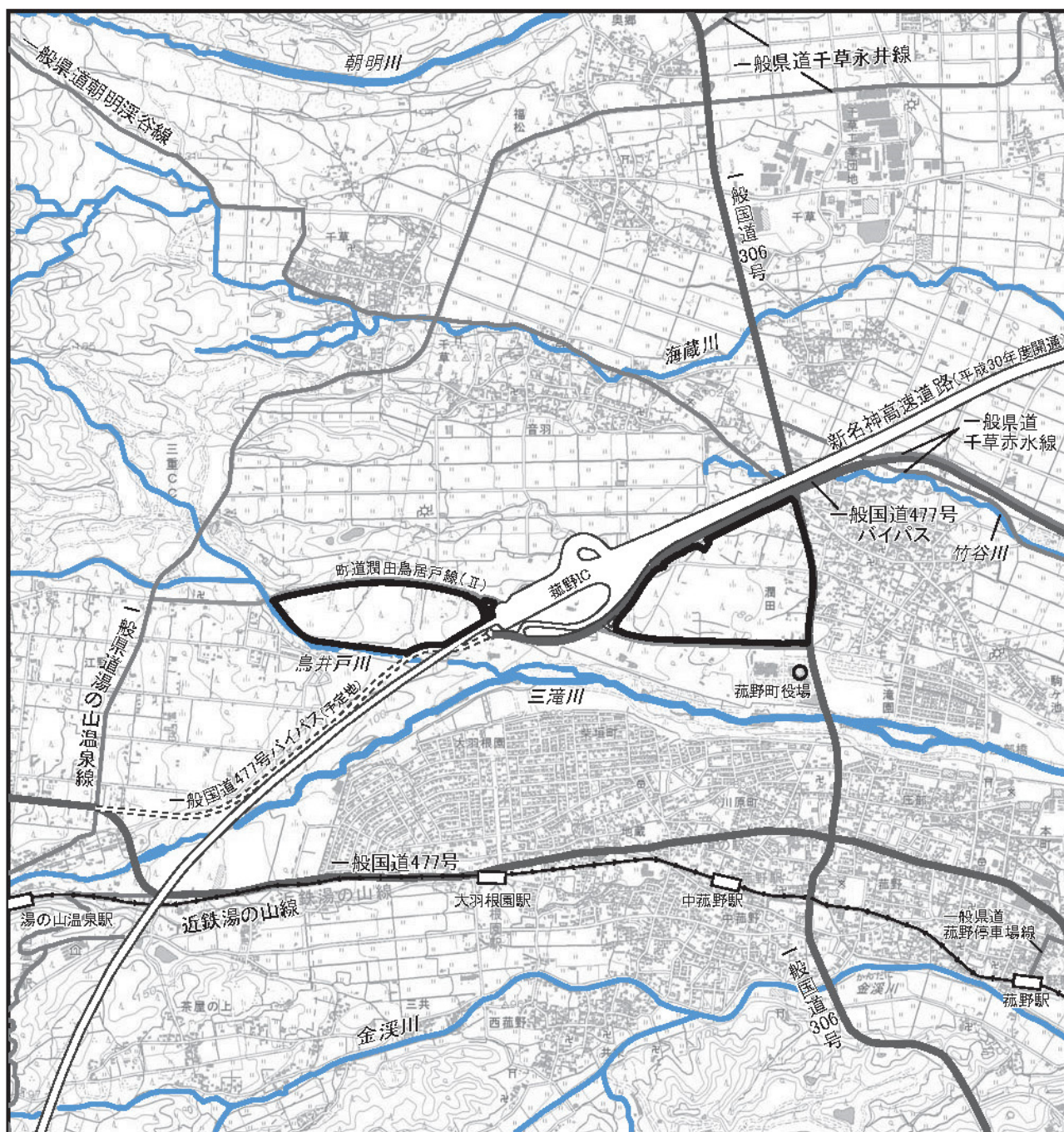
1.2.3 対象事業の規模

土地区画整理事業の施行地区面積: 46.63ha

1.2.4 対象事業の実施区域の位置

本事業の実施区域(以下、「事業施行地区」という。)は図 1.2-1 に示すとおりであり、三重県三重郡菰野町大字潤田地内及び大字音羽地内であり、新名神高速道路の菰野インターチェンジの東側及び西側に隣接する区域である。

また、対象事業の土地利用計画として、現計画を図 1.2-2 に、評価書時の計画を図 1.2-3 に示す。東側の潤田地区は住居系用途、西側の音羽地区は工業系用途での土地区画整理事業である。



凡 例

事業施行地区



:音羽地区(工業系用途)

:潤田地区(住宅系用途)

— :河川

— :国道

— :主要地方道、一般県道

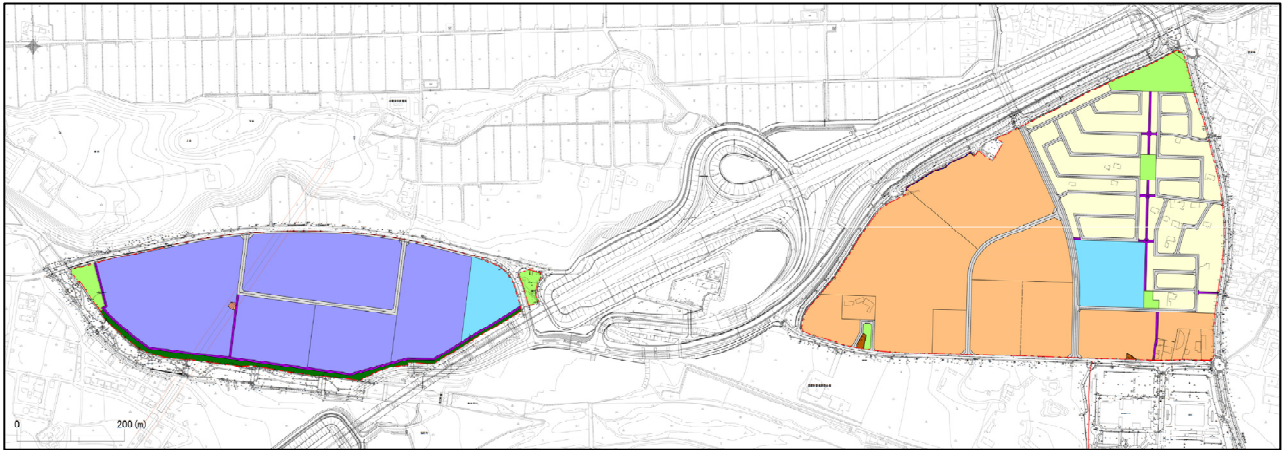
— :鉄道(近鉄)



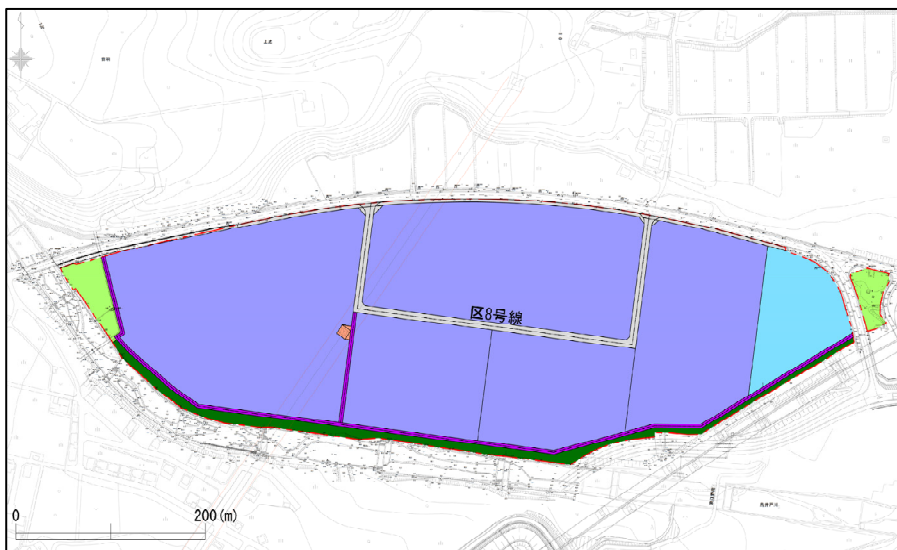
0 500 1,000m

1:25,000

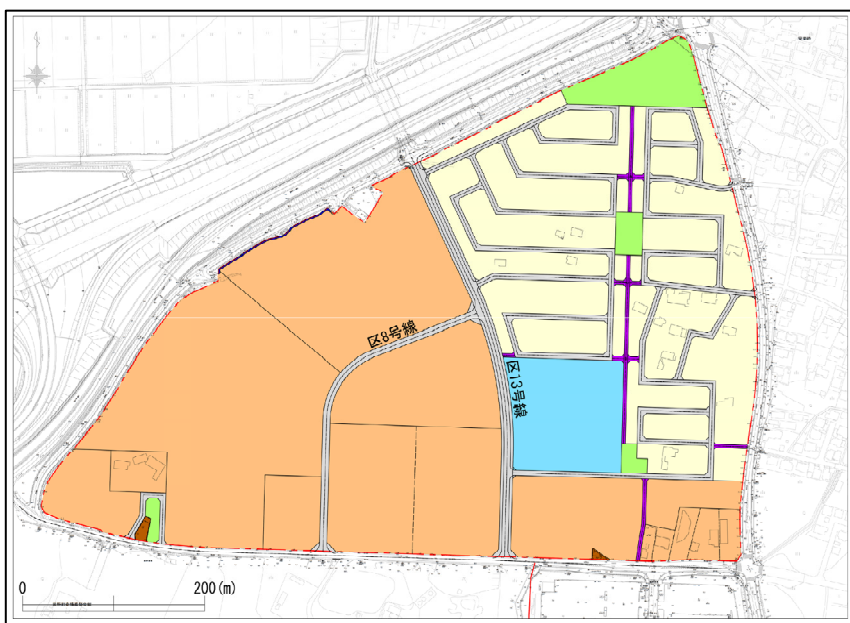
図 1.2-1 事業施行地区の位置



全 体



音羽地区(工業系用途)



潤田地区(住居系用途)

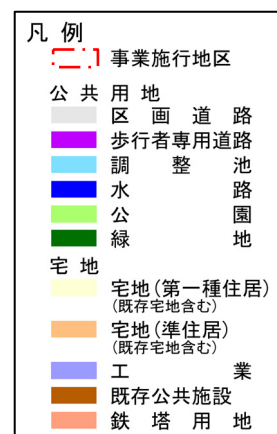
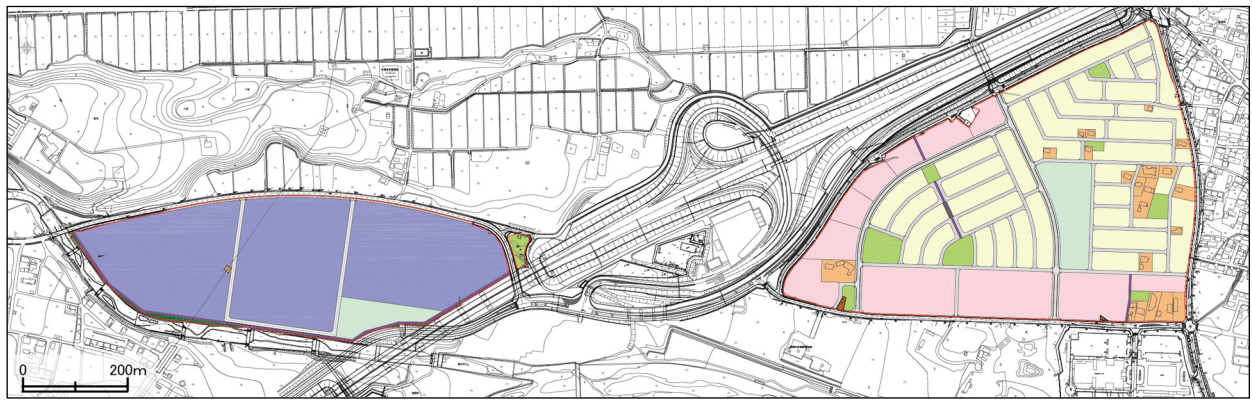
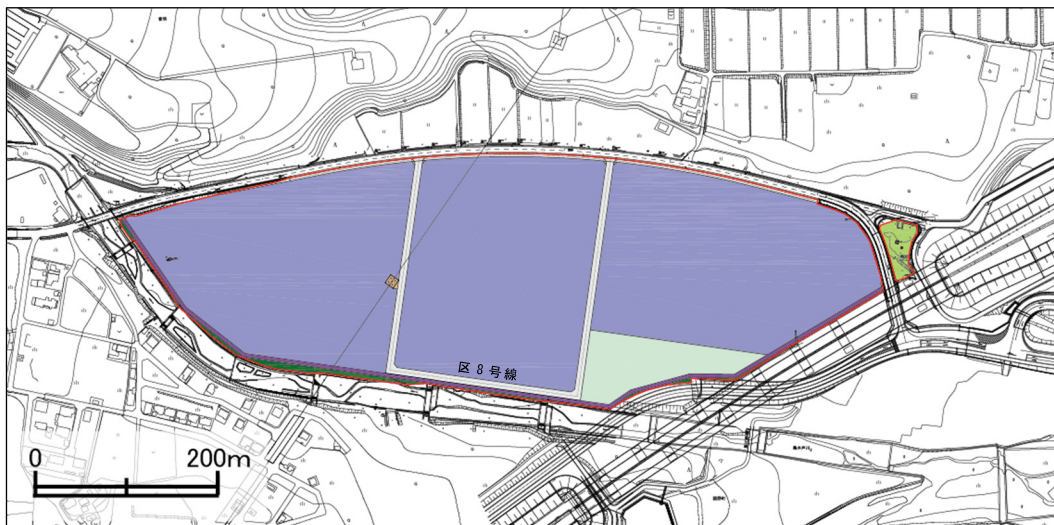


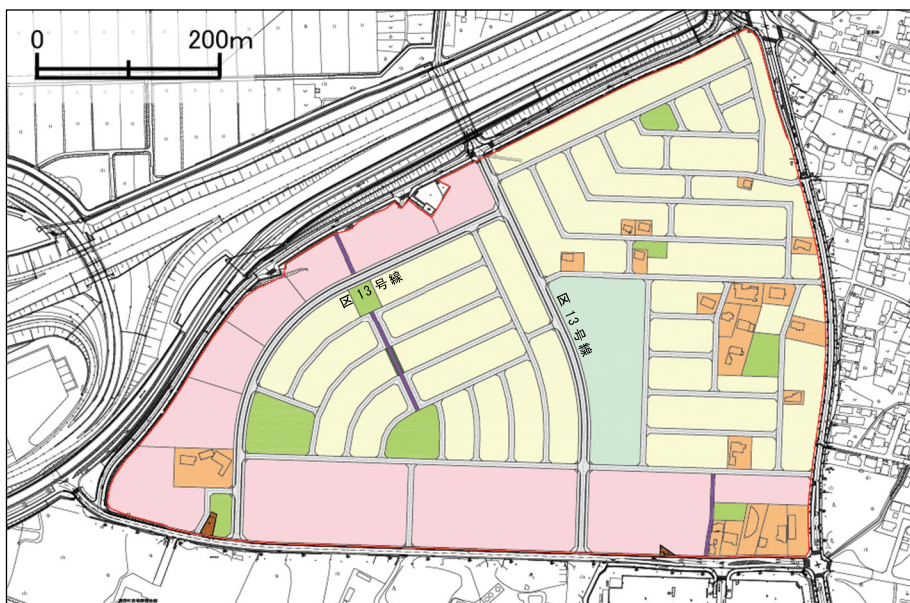
図 1.2-2 土地利用計画図(現時点)



全 体



音羽地区(工業系用途)



潤田地区(住居系用途)

凡 例	
	事業施行地区
公共用地	区画道路
	歩行者専用道路
	調整池
	水路園地
	緑地
宅地	宅地
	住宅(生活利便施設)
	既存住宅地
	工業用地
	既存公共施設
	鉄塔用地

図 1.2-3 土地利用計画図(評価書時の計画)

1.3 対象事業の手続き状況

1.3.1 環境影響評価方法書

平成 29 年 9 月 6 日公告、同日より平成 29 年 10 月 20 日まで縦覧
平成 30 年 1 月 24 日、同方法書に対する三重県知事意見発出

1.3.2 環境影響評価準備書

平成 31 年 4 月 9 日公告、同日より令和元年 5 月 23 日まで縦覧
令和元年 10 月 7 日、同準備書に対する三重県知事意見発出

1.3.3 環境影響評価書

令和元年 12 月 25 日公告、同日より令和 2 年 2 月 7 日まで縦覧

1.3.4 事業内容等の変更

(1) 事業者氏名等変更

① 令和 5 年 12 月 27 日付届出

令和 2 年 7 月 14 日付で土地区画整理組合を設立に伴い、次のとおり事業名称及び事業者名を変更した。

【変更前の内容】

対 象 事 業 の 名 称 : (仮称) 菰野インター周辺地区土地区画整理事業
事 業 者 の 名 称 : (仮称) 菰野インター周辺地区土地区画整理組合設立準備会
代 表 者 の 氏 名 : 会長 伊藤 弘幸
所 在 地 : 菰野町大字潤田 1250 番地 菰野町 都市整備課 まちづくり推進室

【変更後の内容】

対 象 事 業 の 名 称 : 菰野インター周辺地区土地区画整理事業
事 業 者 の 名 称 : 菰野インター周辺地区土地区画整理組合
代 表 者 の 氏 名 : 理事長 伊藤 弘幸
所 在 地 : 菰野町大字菰野 1576-1 西 2 棟

② 令和 7 年 4 月 16 日付届出

令和 7 年 4 月 16 日付で新事務所の建築に伴い、次のとおり所在地を変更した。

【変更前の内容】

所 在 地 : 三重県三重郡菰野町大字菰野 1576-1 西 2 棟

【変更後の内容】

所 在 地 : 三重県三重郡菰野町大字菰野 1099 番地

(2) 事業内容等変更

① 令和 5 年 12 月 27 日付届出

評価書縦覧後、事業の進捗に伴う事業計画の詳細検討結果等により変更が生じたことから、事業内容を変更した。主な変更点は、表 1.3-1(1)～(2)に示すとおりである。また、変更前後の土地利用計画は前掲の図 1.2-2 及び図 1.2-3 に示したとおりである。

表 1.3-1(1) 土地利用計画【変更前の内容】

		音羽地区		潤田地区		合 計	
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
宅 地	工業系用地	14.60	85.64	－	－	14.60	31.31
	住宅系用地						
	宅 地	－	－	12.45	42.08	12.45	26.69
	宅 地 (生活利便施設)	－	－	7.72	26.10	7.72	16.56
	既存宅地	－	－	1.75	5.93	1.75	3.76
	既存公共施設	－	－	0.03	0.11	0.03	0.07
	鉄塔用地	0.01	0.08	－	－	0.01	0.03
公 共 用 地	小 計	14.61	85.72	21.95	74.22	36.57	78.42
	区画道路	0.78	4.57	4.80	16.24	5.58	11.97
	歩行者専用道路	0.38	2.21	0.10	0.35	0.48	1.03
	調整池	0.86	5.04	1.47	4.96	2.33	4.99
	水 路	－	－	0.01	0.02	0.01	0.01
	公 園	0.17	0.98	1.23	4.16	1.40	3.00
	緑 地	0.25	1.48	0.01	0.04	0.26	0.57
合 計		17.05	100.00	29.58	100.00	46.63	100.00

注) 四捨五入の関係上、合計値と内訳が一致しない場合がある。

表 1.3-1(2) 土地利用計画【変更後の内容】

		音羽地区		潤田地区		合 計	
		面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)
宅 地	工業系用地	13.88	81.46	－	－	13.88	29.77
	住宅系用地						
	宅 地	－	－	6.75	22.82	6.75	14.48
	宅 地 (生活利便施設)	－	－	15.08	50.98	15.08	32.34
	既存住宅	－	－	2.04	6.90	2.04	4.37
	既存公共施設	－	－	0.04	0.13	0.04	0.09
	鉄塔用地	0.01	0.06	－	－	0.01	0.02
公 共 用 地	小 計	13.89	81.52	23.91	80.83	37.80	81.07
	区画道路	0.66	3.87	2.89	9.77	3.55	7.61
	歩行者専用道路	0.42	2.46	0.23	0.78	0.66	1.41
	調整池	1.00	5.87	1.51	5.10	2.51	5.38
	水 路	－	－	0.02	0.07	0.02	0.04
	公 園	0.41	2.41	1.02	3.45	1.43	3.07
	緑 地	0.66	3.87	－	－	0.66	1.42
合 計		17.04	100.00	29.58	100.00	46.63	100.00

注) 四捨五入の関係上、合計値と内訳が一致しない場合がある。

② 令和 7 年 5 月 8 日付届出

評価書縦覧後、事業の進捗に伴う工事工程の詳細検討結果による変更が生じたことから、工事工程を次のとおり変更した。

表 1.3-2(1) 工事工程計画【変更前:評価書時】

年度		2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)
項目	1.埋蔵文化財調査(菰野町)								
	2. 準備・防災工事								
土地 地区 画 整 理 事 業	3. 土工事								
	4. 調整池・排水工事								
	5. 道路工事								
	6. 公園・雑工事								
7. 誘致企業建設工事									
8. 住宅建設工事									

表 1.3-2(2) 工事工程計画【変更前:令和 5 年 12 月 27 日事業内容等変更届出時】

年度		2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)	2031 (令和13)
項目	1.埋蔵文化財調査(菰野町)									
	2. 準備・防災工事									
土地 地区 画 整 理 事 業	3. 土工事									
	4. 調整池・排水工事									
	5. 道路工事									
	6. 公園・雑工事									
7. 誘致企業建設工事										
8. 住宅建設工事										

表 1.3-2(3) 工事工程計画【変更後】

年度		2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)	2031 (令和13)
項目	1.埋蔵文化財調査(菰野町)									
	2.準備・防災工事									
土地 地区 画 整 理 事 業	3.土工事									
	4.調整池・排水工事									
	5.道路工事									
	6.公園・雑工事									
7.誘致企業建設工事										
8.住宅建設工事										

1.4 対象事業の進捗状況

本事業の工事工程は表 1.4-1 に示すとおりである。

表 1.4-1 工事工程計画

項目	年度	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)	2031 (令和13)
1.埋蔵文化財調査(菰野町)										
土地区画整理事業	2.準備・防災工事									
	3.土工事									
	4.調整池・排水工事									
	5.道路工事									
	6.公園・雑工事									
7.誘致企業建設工事										
8.住宅建設工事										

1.5 事後調査の進捗状況

本事業に係る事後調査の計画は、表 1.5-1 に示すとおりである。

本報告書は、令和 6 年度に実施した「水質(流量)」、「土壌(土壌汚染)」、「陸生植物(重要な種)」の結果を取りまとめたものである。

表 1.5-1 事後調査計画

影響要因	環境要素	項目	調査地点	調査方法	調査開始時期・期間	調査頻度	実施主体
工事中	大気質	自動車交通量	沿道大気、騒音、振動の予測地点 8 地点	自動車交通量をハンドカウンターを用いて、方向別、時間別、車種別（大型車、小型車、自動二輪車）に計測する方法	新名神高速道路菟野 I C 供用開始後で本事業の工事開始前	平日 1 回 休日 1 回 24 時間測定	事業者
	騒音						
	振動						
	水質	流量	三滝川及び鳥井戸川における現況調査の 5 地点	JIS K 0094 8.4（流速計による測定）に準拠する方法	本事業の工事開始前から工事完了まで	12 回 / 年 (月 1 回)	事業者
	土壌	土壌汚染	事業実施区域内	「土壌汚染対策法」に準拠	工事開始前	1 回	事業者
	陸生植物	重要な種（コブシ、コ克蘭）	重要な種の移植地点	移植作業及び任意観察による移植後の活着状況を確認する方法	移植完了後 1 ヶ月後、3 ヶ月後、6 ヶ月後、1 年後まで ※ 1 年後の事後調査結果の移植個体の活着状況により以降の継続モニタリングを検討する。	各 1 回	事業者
存在及び供用	歴史的文化的な遺産	埋蔵文化財	事業実施区域内（潤田地区）	埋蔵文化財調査（確認調査、本調査）	関係工区の工事実施前	各 1 回	事業者
	水質	流量及び水質	三滝川及び鳥井戸川における現況調査の 5 地点	流量: JIS K 0094 8.4（流速計による測定）に準拠する方法 水質: 「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定める方法等	本事業の工事完了後 1 年間	12 回 / 年 (月 1 回)	事業者 又は 誘致企業
	陸生動物	重要な種	事業施行地区及び周辺約 200m	任意踏査等による生息状況及び生息環境を確認する方法	緑地及び公園整備完了後 1 年後 ※ 1 年後の事後調査結果の緑地や公園の緑化樹木の生育状況及び対象種の生息状況により以降の継続モニタリングを検討する。	各 1 回	事業者 又は 誘致企業
	陸生植物	緑化の状況	新設緑地及び公園	任意観察による活着状況を確認する方法	緑地及び公園整備完了後 1 ヶ月後、3 ヶ月後、6 ヶ月後、1 年後まで ※ 1 年後の事後調査結果の緑化樹木の生育状況により以降の継続モニタリングを検討する。	各 1 回	事業者 又は 誘致企業
	生態系	注目種	事業施行地区及び周辺約 200m	任意踏査等による生息状況及び生息環境を確認する方法	緑地及び公園整備完了後 1 年後 ※ 1 年後の事後調査結果の緑地や公園の緑化樹木の生育状況及び対象種の生息状況により以降の継続モニタリングを検討する。	各 1 回	事業者 又は 誘致企業

1.6 調査委託機関

事 業 者 の 名 称 : 株式会社サポート

代 表 者 の 氏 名 : 代表取締役社長 鈴木 敦司

主たる事務所の所在地: 東京都台東区台東四丁目 29 番 8 号 こうしんビル 6 階

第 2 章 調査結果

2.1 水質(流量)

2.1.1 調査概要

評価書における予測結果から、事業の実施による水質の影響については、科学的知見や類似事例に基づいた手法により予測を行った結果、周辺環境への影響の程度は小さいと判断されたが、工事中及び供用時の雨水排水等の放流先予定の三滝川は、表流水が少なく影響については、その不確実性を考慮し、三滝川及び鳥井戸川の流量の事後調査の実施により予測結果を検証する計画とした。

2.1.2 調査項目及び分析方法

各調査地点において、JIS K 0094 8.4(流速計による測定)に準拠する方法により、流量の現況を把握した。

2.1.3 調査地点

調査地点は、評価書時の現況調査地点のうち放流先河川の三滝川及び鳥井戸川における 5 地点とし、表 2.1-1 及び図 2.1-1 に示すとおりである。

表 2.1-1 水質(流量)調査地点

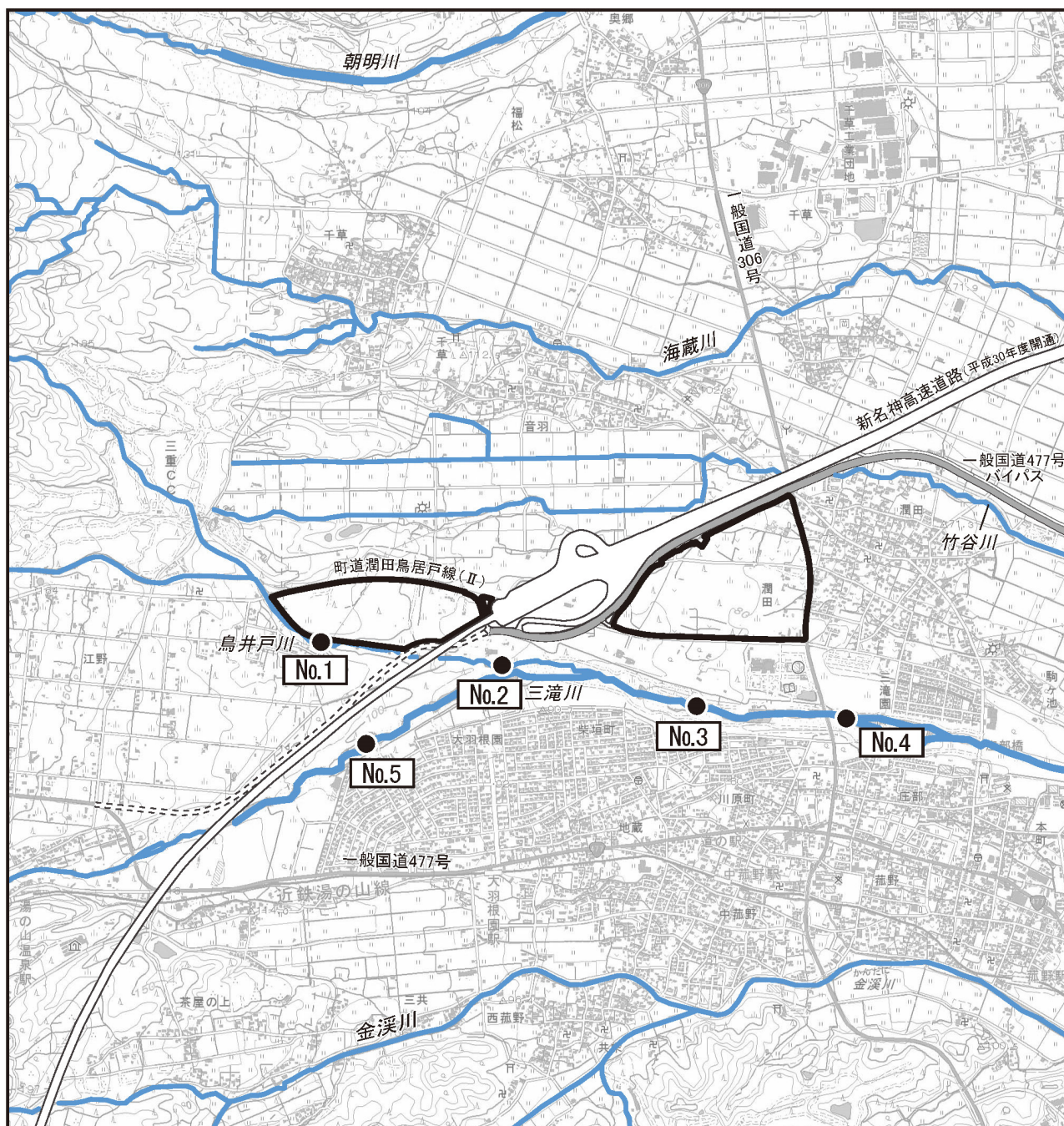
環境要素	調査項目	地点番号	調査地点名	選定理由
水質	流量	No.1	鳥井戸川放流口上流側	工業系用途の事業施行地区(音羽地区)からの排水放流口の上流側地点
		No.2	鳥井戸川放流口下流側	工業系用途の事業施行地区(音羽地区)からの排水放流口の下流側地点
		No.3	三滝川放流口上流側	住居系用途の事業施行地区(潤田地区)からの排水放流口の上流側地点
		No.4	三滝川放流口下流側	住居系用途の事業施行地区(潤田地区)からの排水放流口の下流側地点
		No.5	三滝川鳥井戸川合流前	三滝川鳥井戸川合流前

2.1.4 調査時期

水質(流量)の調査は、次に示す各月 1 回実施した。

【工事着手前】

- ・令和 6 年 4 月 12 日(金) 午前 10 時 39 分～午後 12 時 55 分
- ・令和 6 年 5 月 10 日(金) 午前 9 時 58 分～午前 11 時 40 分
- ・令和 6 年 6 月 14 日(金) 午前 10 時 05 分～午前 11 時 10 分
- ・令和 6 年 7 月 19 日(金) 午前 9 時 50 分～午後 12 時 50 分
- ・令和 6 年 8 月 9 日(金) 午前 9 時 50 分～午前 11 時 00 分
- ・令和 6 年 9 月 9 日(月) 午前 9 時 45 分～午後 11 時 42 分
- ・令和 6 年 10 月 11 日(金) 午前 9 時 15 分～午後 11 時 20 分
- ・令和 6 年 11 月 8 日(金) 午前 9 時 20 分～午後 11 時 45 分
- ・令和 6 年 12 月 9 日(月) 午前 9 時 45 分～午後 11 時 35 分
- ・令和 7 年 1 月 10 日(金) 午前 9 時 50 分～午後 11 時 50 分
- ・令和 7 年 2 月 7 日(金) 午前 9 時 10 分～午後 10 時 59 分
- ・令和 7 年 3 月 7 日(金) 午前 9 時 25 分～午後 11 時 25 分



凡 例

事業施行地区



：音羽地区

：潤田地区



：水質(流量)調査地点〔No.1～5〕

：河川



0 500 1,000m

1 : 25,000

図 2.1-1 水質(流量)の現地調査地点

2.1.5 調査結果

水質(流量)の現地調査結果は、表 2.1-2(1)～(2)に示すとおりである。

表 2.1-2(1) 水質(流量)調査結果

単位: m³/h

調査時期 調査地点	令和 6 年					
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
No.1	1,346	707	733	2,633	479	2,178
No.2	1,339	816	322	1,783	468	1,714
No.3	3,294	1,793	－	6,051	－	3,556
No.4	3,634	1,651	－	6,256	－	2,827
No.5	3,235	1,875	481	5,817	695	2,667

注)「－」は渇水のため欠測

表 2.1-2(2) 水質(流量)調査結果

単位: m³/h

調査時期 調査地点	令和 6 年			令和 7 年		
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
No.1	877	1,108	589	314	297	753
No.2	962	1,015	545	174	135	601
No.3	1,695	1,395	81	－	－	1,519
No.4	1,269	1,112	－	－	－	982
No.5	1,646	1,261	861	671	382	1,752

2.1.6 まとめ

工事中及び供用時の雨水排水等の放流先予定の三滝川は、表流水が少なく影響については、その不確実性を考慮し、今年度は、工事実施前の三滝川及び鳥井戸川の流量の調査を行った。

今年度の事後調査と評価書時の同月の流量の比較は、表 2.1-3 に示すとおりである。降雨量の差により評価書時より流量が多い傾向の月があるが、全体的に流量の変動については、概ね同様の傾向であった。

表 2.1-3 事後調査と評価書時の流量

単位: m³/h

調査地点		調査時期							
		4 月	5 月	7 月	8 月	9 月	10 月	1 月	2 月
No.1	評価書	660	980	730	480	1,300	790	440	270
	事後調査	1,346	707	2,633	479	2,178	877	314	297
No.2	評価書	530	1,100	430	130	1,500	880	420	260
	事後調査	1,339	816	1,783	468	1,714	962	174	135
No.3	評価書	250	4,100	81	－	3,100	470	－	－
	事後調査	3,294	1,793	6,051	－	3,556	1,695	－	－
No.4	評価書	－	4,300	－	－	2,100	－	－	－
	事後調査	3,634	1,651	6,256	－	2,827	1,269	－	－
No.5	評価書	1,300	3,400	720	150	3,400	850	860	760
	事後調査	3,235	1,875	5,817	695	2,667	1,646	671	382

注)「－」は渇水のため欠測

2.2 土壌(土壌汚染)

2.2.1 調査概要

評価書においては、事業の実施による土壌への影響については、別途、「土壌汚染対策法」の手続きの中で適切に対処するため影響の程度は小さいと判断したため、「土壌汚染対策法」の手続きの結果等を整理し事後調査報告とする計画とした。

本年度は、音羽地区の「要措置区域」の解除にむけた対策工事について結果を記載する。

2.2.2 対策工事方法

「土壌汚染対策法」に準拠して行った。

2.2.3 対策工事範囲

事業施行地区内の土壌汚染が確認された範囲とした。

2.2.4 対策工事時期

土壌汚染対策工事の時期は、以下に示すとおりである。

- ・令和 6 年 4 月 22 日から令和 6 年 5 月 31 日

2.2.5 対策工事結果

土壌汚染対策工事の結果は、以下に示すとおりである。

- ・土壌溶出量基準を超過した箇所については、汚染範囲を掘削除去し、清浄土で埋め戻した。
- ・汚染土壌の掘削除去工事は、汚染土壌が周辺に飛散しないように実施した。
- ・掘削除去した土壌は、汚染土壌処理業許可業者へ搬出し、適切に処理を行った。
- ・汚染土壌の発見時から対策完了時まで、汚染箇所には関係者以外の立入禁止措置を講じており、人の健康又は生活環境に係る被害は生じていない。

2.2.6 まとめ

上記のとおり、土壌汚染対策法に基づき「要措置区域」に指定された箇所について、土壌汚染対策工事を行い「要措置区域」は令和 6 年 8 月 9 日に解除された。

2.3 陸生植物(重要な種)

2.3.1 調査概要

評価書における予測結果から、事業の実施による陸生植物への影響については、類似事例に基づいた手法により予測を行った結果、影響の程度は小さいと判断されたが、生育環境や生育個体の減少が予測された重要な種について、消失が予測される個体を代替の生育環境に移植することで、事業による影響を代償する計画とした。また、その環境保全措置の効果を確認するまでに時間を要し、継続的な監視が必要であることから事後調査の実施により環境保全措置の効果を検証する計画とした。

今年度は、移植を行ったコ克蘭及びスズカカンアオイの活着状況の確認を行った。

・活着状況の確認(移植後のおおよそ6ヶ月後、1年後)

2.3.2 調査方法

移植した個体の活着状況について、目視確認を行った。

2.3.3 調査地域・地点

重要な種の確認は事業施行地区の音羽地区及び潤田地区内とした。移植個体の採取・

移植は、工事工程等を踏まえて、先に工事を開始する音羽地区内の重要な種のうち移植対象として選定した個体とした。潤田地区の重要な種については、工事工程を踏まえて工事開始前の適切な時期に実施することとした。

詳細な移植位置については、図 2.3-1(1)～(2)に示すとおりである。

2.3.4 調査時期

陸生植物(重要な種)の調査は、以下に示すとおりである。

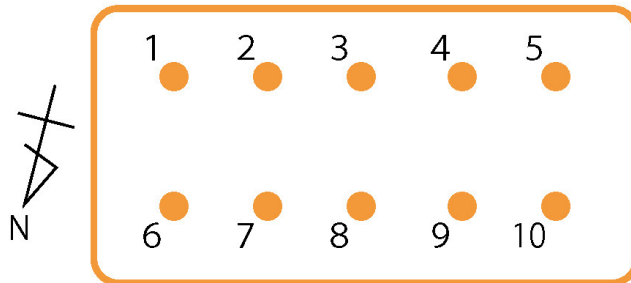
- ・活着状況の確認:(移植6ヶ月後)令和6年5月30日(木)
(移植1年後) 令和6年11月14日(木)

重要な種の保護のため移植地点は非公開とする

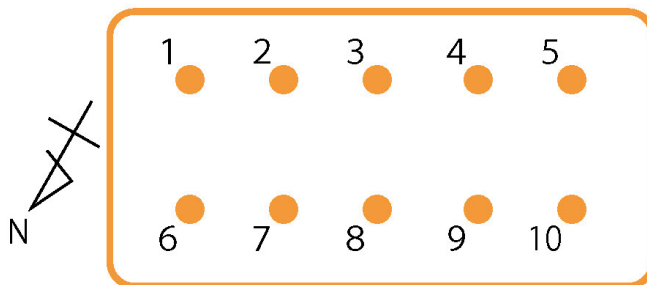
非公開

図 2.3-1(1) 重要な種の移植位置

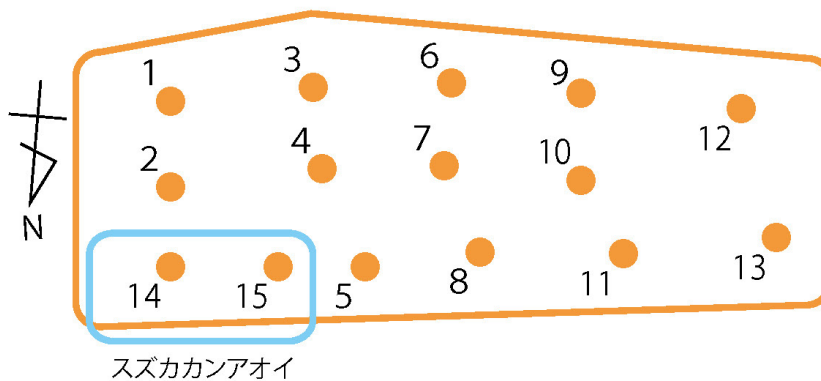
保全枠①（スズカカンアオイ：10株），約4m×2m



保全枠②（スズカカンアオイ：10株），約4m×2m



保全枠③（コクラン：13株，スズカカンアオイ：2株），約6m×2m



スズカカンアオイ

移植先（残存緑地）の詳細

図 2.3-1(2) 重要な種の移植位置

2.3.5 調査等の結果

コクラン及びスズカカンアオイの移植 6 ヶ月及び 1 年後の活着状況については、表 2.3-2 (1)～(2)に示すとおりである。

コクランの活着状況については、移植 1 年後までの時点で移植を行った 13 個体中、状態が良好なものが 11 個体、普通が 1 個体、可が 1 個体と活着状況は良好である。スズカカンアオイの活着状況については、移植を行った 22 個体中、状態が良好なものが 7 個体、普通が 3 個体、可が 1 個体、枯死が 11 個体であり移植を行った半数の活着であった。

表 2.3-2(1) コクランの活着状況

状 態※	移植 6 ヶ月後 (2024 年 5 月 30 日)			移植 1 年後 (2024 年 11 月 14 日)		
	保全枠			保全枠		
	1	2	3	1	2	3
良	—	—	7	—	—	11
普	—	—	5	—	—	1
可	—	—	1	—	—	1
枯死	—	—	0	—	—	0
総 計	—	—	13	—	—	13

注) ※植物個体の生育状態は、目視観察により地上部分を「質感」、「葉の張り」、「ネクロシスの有無」、「虫害の状態」、「葉の色」、「変色」、などから総合的に 4 段階で評価した。

良: 葉が質感が良く勢いのある発展的な生長状態にある。

普: 葉の勢いが安定的な平衡状態で保たれている。

可: 葉の勢いが衰退方向にある。

枯死: 葉の勢いがなく枯れると思われる。ほぼ枯れている。

表 2.3-2(2) スズカカンアオイの活着状況

状 態※	移植 6 ヶ月後 (2024 年 5 月 30 日)			移植 1 年後 (2024 年 11 月 14 日)		
	保全枠			保全枠		
	1	2	3	1	2	3
良	7	9	1	4	2	1
普	3	1	1	2	1	0
可	0	0	0	0	1	0
枯死	0	0	0	4	6	1
総 計	10	10	2	10	10	2

注) ※植物個体の生育状態は、目視観察により地上部分を「質感」、「葉の張り」、「ネクロシスの有無」、「虫害の状態」、「葉の色」、「変色」、などから総合的に 4 段階で評価した。

良: 葉が質感が良く勢いのある発展的な生長状態にある。

普: 葉の勢いが安定的な平衡状態で保たれている。

可: 葉の勢いが衰退方向にある。

枯死: 葉の勢いがなく枯れると思われる。ほぼ枯れている。

	1	2	3	4	5
移植時	 普	 普	 可	 可	 普
6ヶ月後	 良	 良	 普	 普	 良
1年後	 枯	 普	 枯	 枯	 良
	6	7	8	9	10
移植時	 普	 可	 普	 可	 普
6ヶ月後	 良	 良	 良	 良	 普
1年後	 普	 良	 良	 良	 枯

写真 2.3-1(1) 重要な種の移植状況保全枠①(1～10: スズカカンアオイ)
















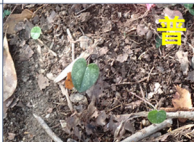
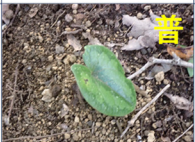



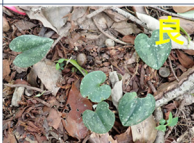


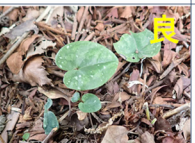

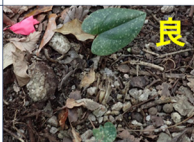

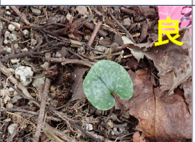

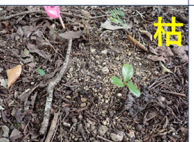
	1	2	3	4	5
移植時	 普	 普	 普	 普	 普
6ヶ月後	 良	 良	 普	 良	 良
1年後	 枯	 普	 枯	 可	 枯
	6	7	8	9	10
移植時	 普	 普	 普	 普	 普
6ヶ月後	 良	 良	 良	 良	 良
1年後	 良	 枯	 良	 枯	 枯

写真 2.3-1(2) 重要な種の移植状況保全枠②(1～10:スズカカンアオイ)

	1	2	3	4	5
移植時	 良	 良	 良	 良	 良
6ヶ月後	 良	 良	 良	 普	 普
1年後	 良	 良	 良	 良	 普
	6	7	8	9	10
移植時	 良	 良	 良	 普	 普
6ヶ月後	 普	 良	 良	 良	 普
1年後	 良	 良	 良	 可	 良
	11	12	13	14	15
移植時	 普	 良	 可	 普	 普
6ヶ月後	 普	 良	 可	 普	 良
1年後	 良	 良	 良	 枯	 良

写真 2.3-1(3) 重要な種の移植状況保全枠③(1～13:コ克蘭、14～15:スズカカンアオイ)

2.3.6 まとめ

移植を行った音羽地区で確認されたコ克蘭(13 株)及びスズカカンアオイ(22 株)の移植時から移植 1 年後までの活着状況については、表 2.3-3(1)～(2)に示すとおりである。

令和 6 年 11 月時点(移植 1 年後)では、活着状況はコ克蘭については良好であったが、スズカカンアオイについては移植時「可」であったが 1 年後「良」になった個体もあるものの、半数の活着であったため、必要に応じてモニタリングの継続や残っている個体の再移植を含め追加措置を検討する。

表 2.3-3(1) コ克蘭の活着状況(移植時～1 年後)

状 態※	移植時 (2023 年 11 月 29 日)			移植 1 ヶ月後 (2023 年 12 月 22 日)			移植 3 ヶ月後 (2024 年 2 月 19 日)		
	保全枠			保全枠			保全枠		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
良	—	—	9	—	—	12	—	—	12
普	—	—	3	—	—	0	—	—	1
可	—	—	1	—	—	1	—	—	0
枯死	—	0	—	—	—	0	—	—	0
総 計	—	—	13	—	—	13	—	—	13

状 態※	移植 6 ヶ月後 (2024 年 5 月 30 日)			移植 1 年後 (2024 年 11 月 14 日)		
	保全枠			保全枠		
	1	2	3	1	2	3
良	—	—	7	—	—	11
普	—	—	5	—	—	1
可	—	—	1	—	—	1
枯死	—	—	0	—	—	0
総 計	—	—	13	—	—	13

注) ※植物個体の生育状態は、目視観察により地上部分を「質感」、「葉の張り」、「ネクロシスの有無」、「虫害の状態」、「葉の色」、「変色」、などから総合的に 4 段階で評価した。

良: 葉が質感が良く勢いのある発展的な生長状態にある。

普: 葉の勢いが安定的な平衡状態で保たれている。

可: 葉の勢いが衰退方向にある。

枯死: 葉の勢いがなく枯れると思われる。ほぼ枯れている。

表 2.3-3(2) スズカカンアオイの活着状況(移植時～1年後)

状 態※	移植時 (2023 年 11 月 29 日)			移植 1 ヶ月後 (2023 年 12 月 22 日)			移植 3 ヶ月後 (2024 年 2 月 19 日)		
	保全枠			保全枠			保全枠		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
良	0	0	0	4	9	2	2	1	1
普	6	8	2	2	1	0	3	4	1
可	4	2	0	3	0	0	4	5	0
枯死	0	0	0	1	0	0	1	0	0
総 計	10	10	2	10	10	2	10	10	2

状 態※	移植 6 ヶ月後 (2024 年 5 月 30 日)			移植 1 年後 (2024 年 11 月 14 日)		
	保全枠			保全枠		
	1	2	3	1	2	3
良	7	9	1	4	2	1
普	3	1	1	2	1	0
可	0	0	0	0	1	0
枯死	0	0	0	4	6	1
総 計	10	10	2	10	10	2

注) ※植物個体の生育状態は、目視観察により地上部分を「質感」、「葉の張り」、「ネクロシスの有無」、「虫害の状態」、「葉の色」、「変色」、などから総合的に 4 段階で評価した。

良: 葉が質感が良く勢いのある発展的な生長状態にある。

普: 葉の勢いが安定的な平衡状態で保たれている。

可: 葉の勢いが衰退方向にある。

枯死: 葉の勢いがなく枯れると思われる。ほぼ枯れている。